

idea

ニュースレター「アイデア」

2019. 6

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 狩りガール 加藤忍さん
- 3 | 団体紹介 | ななちゃんの会
- 5 | 地域紹介 | 堤下集落自治会（花泉）
- 7 | 企業紹介 | 有限会社 旗や伊藤染工場（川崎）
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域づくりがおすすめ？
- 9 | センターの自由研究 | 「巨樹」探訪 vol.2

今月の表紙

これは、大東町大原地区にある「夫婦カヤ」の木の根元です。
先祖供養のために「十人塚」として祀った石の隣にカヤの木がありましたが、
現在ではカヤの木が石を包み込んでいます。



131 / 116,360

加藤 忍

山目地区在住。平成 28 年から猟を始め、現在は鉄砲の免許を所持。「西磐井猟友会」所属。

県全体の猟友会が行う「安全狩猟射撃大会」には、西磐井地区の女性代表として出場。先輩ハンターの方々に技術を教わりながら、仲間と共に趣味で猟を楽しんでいます。

第60回

狩りガール 加藤忍さん ✕ いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

女性視点での猟の魅力 ～生き物の「命」と「食」～

前回は猪狩り名人の小岩広昭さんとの対談をご紹介しましたが、今回は、小岩さんにご紹介いただいた市内でもまだ人数が少ない女性ハンターの加藤忍さんに、ハンターになった理由や、猟の楽しみ、現場に出て感じたことなどを伺いました。

小野寺 加藤さんは何をきっかけに狩りを始められたのでしょうか？

加藤 前の職場の上司が鉄砲の免許を持っていて、その方にクレイ射撃の動画を見せてもらったり、野生動物の肉の話を聞くうちに「おもしろそうだな」と興味が湧いたんです。これを一つの趣味にしてみようかなと。

小野寺 では「趣味を持つとう」と思ったことが始まりだったんですね。でも狩猟を趣味にする女性はなかなか珍しいですよ。

加藤 もろもろの刺激が欲しかったんだと思います。「楽しそうだな」とか「気持ち良さそうだな」とか、本当に単純な理由でした。始めてすぐ、まずは狩りの現場を見てみたいと思い、舞川地区で行った「巻き狩り」というグループ猟に同行させてもらいました。先輩達と一緒に山や崖を歩いてポ

イントに向かい「耳で聞くよりその場で体験した方がわかりやすい」と、皆さんに教わりながら猟にも参加しました。巻き狩りは、獲物を追い込む「せこ（勢子）」と、追い込まれてきた獲物を囲い、鉄砲で撃って仕留める「たち」という役割に分かれて行います。

小野寺 一人ではなくチームで行う猟なんですね。

加藤 はい。この猟を体験した時に自分の中で達成感があったんですね。巻き狩りは、鉄砲を扱えなくても「せこ」と「たち」両方の役割ができるので、その後も何度か猟に参加させてもらいました。

小野寺 そうして経験を積んでいったんですね。鉄砲の免許はいつ取得したんですか？

加藤 鉄砲の免許は、巻き狩りに参加する間に取りました。教習射撃で撃ち方は教わったのですが、

いざ山に入ると誰がどこにいるのかわかりにくく危険もあり、最初は「怖い！」という気持ちが大き

く、撃てませんでした。山中で自分の10〜15m先に鹿を見つけて目が合った時も、どうしたら良いかわからず何もできなかったり…。

小野寺 やはり、目が合ってから命を奪うのは心苦しいですか？

加藤 ええ。皆そう言います。

小野寺 加藤さんはもう獲物を仕留める体験をされたんですか？

加藤 はい。大物はまだありませんが、カモはあります。鉄砲を撃ってから「自分の弾がヒットした」という感触はまだよくわかりませんが、当たった時は嬉しいですね。

小野寺 慣れてくると段々と感触を掴んでくるものなのでしょう。ちなみに、獲物を撃って仕留めたら、その後どうするのですか？

加藤 私の場合、その場で食べてしまうこともあります。釣った魚をその場で焼いて食べるような感

覚ですね。

小野寺 そうなんです！血抜きに時間がかかったりしませんか？

加藤 大きい獲物は血抜きが必要ですが、鳥などの小さい獲物だと血抜きしません。ただ獲物の毛をむしって、捌いて、食べます。私はそうしますが他のハンターは肉を食べずに焼却したり、肉が欲しいという方に譲ることが多いようです。肉を食べるより、捕るのが好きというハンターの方が多いですから。

小野寺 その場で食べる時はどう調理するんですか？

加藤 かしこまった物は作れないので、本当にシンプルです。野生動物の肉は臭いが強いので、それを消す方法をインターネットで調べたりしながら、「クセがあるけど美味しいね」「〇〇の肉に似てるね」など比べながら食べたり。

小野寺 野生動物の肉は、独特でクセがありますよね。鳥・豚・牛・羊肉はスーパーで売られているの

で一般の方も食べ慣れていますが、それ以外は食べることが少ないですし、比較を楽しんでいる感じがありますよね。加藤さんのように「食べることが好き」という気持ちは大切なことだと思います。猟は生物の命をいただくことをリアルに経験できる場でもありますから。加藤さんの他にも女性ハンターはいるのでしょうか？

加藤 東磐井の方はわかりませんが、西磐井では罾猟をしている女性が1名います。県職員の方で、仕事の繋がりで罾の免許を取ったそうですが、知識がすごく豊富で。男性より女性の方が話が合いやすいので、もっと女性の狩り仲間が増えれば嬉しいなと思っています。

小野寺 今後女性ハンターの仲間が増えるといいですね。男性と比べた時、女性が猟で苦労する点は何でしょうか？

加藤 以前、厳美で猪を捕ったのですが、体重が80kgもあったので持ち上げるのに苦労しました。その時は私ともう一人の男性で持ち上げましたが、女性の力だけでは難しかったです。それにトイ

レも大変ですね。どこにでもあるわけではないかもしれません。

小野寺 なるほど。やはり女性の視点だと違いますね。猟は有害動物駆除の目的もありますが、加藤さんのように自然の生き物と向き合いながら猟を楽しむ方もいますし、捕った獲物を食べ比べるなど、リアルティのあるお話を聞くことができます。ハンターを急増やすのは難しいですが、女性ハンターとして活動する加藤さんのことを知り、猟に興味関心を持つてくれる方が少しでも増えればと思います。



猟に参加する加藤さん（手前）
山林の中でも人が目立つよう、オレンジ色のベストを着て猟に出ています。

連絡先

西磐井友会 事務局

(0191-82-1322)

団体 紹介



ななちゃんの会

平成 26 年度に地域でヤギを飼い始めたことをきっかけにヤギのミルクを活用した活動に取り組んでいます。

〒029-3406 一関市藤沢町西口字切付 56

TEL&FAX 0191-63-4390 (代表: 小野寺)

左の写真: 今年 3 月のおひなマルシェ (千厩ひなまつり) に出展したときの様子。

ヤギと一緒に地域を盛り上げたい

ヤギを飼ってみっぺし!

藤沢町の中心部から西へ約 5 km に位置し、川崎町に接する西口地区。地区内自治会から構成される西口自治会協議会では、高齢化による人手不足から地域内の草刈りが課題となっており、助っ人としてヤギに草を食べてもらい作業出役緩和を図ろうと平成 26 年度からヤギを飼い始めました。

初年度は小岩井農場での研修等も行い、「一関市農村活性化モデル支援事業」を活用してヤギを購入。群馬県からやってきた 3 匹のヤギは、西口の 3 自治会(6 区・7 区・8 区)にちなんで「ろつく」「なな」「はち」と名付けられました。その後、子ヤギも産まれ現在では 10 匹以上に増えているそうです。

最近では地域の有志によりヤギに草を食べさせるだけでなく、ミルクを活用した取り組みも始まっています。今回はヤギと共に

ななちゃんの会

地域活性化を目指そうと立ち上がった女性陣により設立された「ななちゃんの会」の皆さんに、これまでの取り組みやその中でできた様々なつながり、今後の目標について伺いました。

チャレンジすることで見えた新しい世界やつながり

「昔はどの家でもヤギを飼っていたし、家の手伝いで乳絞りもしていたので、ヤギには慣れていた」と話すのは会長の小野寺梅子さん。会を立ち上げたきっかけは、ヤギを飼い始めてから 3 年が経った平成 29 年に、活動の呼びかけ人である小野寺正子さんが新聞で見かけた手作り石けんの記事。お友達の梅子さん、小野千恵さんに声をかけ、市の農村地域づくり活動支援員の協力ももらい、ヤギのミルクを使った石けんづくりの勉強を始めました。

はじめはヤギミルク以外にもハチミツやラベンダーなどで数種類の石けんを試作し、地区の女性部の役員会で配布、アンケート

ミルクのおすそわけ

石けんに使うミルクはヤギの子どもが産まれたときに出るミルクを「おすそわけ」としてもらっています。



活動を支えるヤギたち

ミルクが出る期間は毎朝絞ります。ヤギのエサは地域の草以外にも近隣の方々から野菜の提供などもあるそうです。



gallery -

を取りました。肌に優しいといわれているヤギミルク石けんは、他の物よりしっとり感や泡立ちが良かったという感想も多く、さっそく近隣地域のイベントで販売したところ、見事に完売。本格的に商品化を目指すとうと平成30年度に岩手県の「幸せを創る女性農林漁業者育成事業」に申請。最初に飼ったヤギの名前が「ななちゃん」であり、メンバーが7区在住だったことから、団体名を「ななちゃんの家」として平成30年9月に正式に団体を設立しました。

育成事業の中で様々な人からアドバイスや刺激を受けながら、石けんの試作・改良を重ね、平成31年にはパッケージをリニューアル。正子さんは「色々な出会いがあり、事業の成果発表会などで他の6次産業に取り組んでいる人たちの活動も知りました。知らなかった世界が見えてきて、色々な発見がありました」と話します。

事務局の千恵さんも「活動を通して色々な人と交流でき、横のつながりが増えました。石けんを使った人の口コミで身近な人達からも『石けんが欲しい』と言われることが増えました」と少しずつ活動の広がりを感じていきます。また、最近では同会の

活動を知り、市内外から「うちでもヤギを飼ってみたい」という声も届くそうです。

広がる地域の活性化

ヤギの活躍は石けんだけにはとどまりません。草だらけだった梅畑の草を食べてくれたことを機に、男性陣が梅の木を剪定。梅干しを作る活動も始めました。梅子さんのお家では、夫の忠助さんがヤギの乳絞りや石けんを熟成させるための棚を制作。会員は3人ですが、家族や様々な人の協力が活動を支えています。

石けん作りは、材料を混ぜて乾燥・熟成させた後、使用できるようになるまでに約3か月かかるとのこと。現在は品切れ中のため6月頃から販売を再開する予定で、梅子さんは「安定供給が今後の目標です」と話します。これまではイベントに出店しての販売のみでしたが、パッケージを手掛けたデザイナーさんの紹介で今は盛岡のお店での販売も予定しています。

「今後は地区内にチラシを配布するなどして地元の理解や協力をもらいながら、地域をさらに盛り上げて

今後の目標は？

会長



おのでらうめこ
小野寺梅子さん

家族の協力をもらいながら自宅でのヤギの飼育、乳絞りなども担当しています。

副会長



おのでらまさこ
小野寺正子さん

石けん作りの呼びかけ人。将来的には「全国販売」も目標にしていきたいとのこと。

「いきたい」と3人は今後の展望を語ってくださいました。
※石けんの購入については、右ページ記載の連絡先にお問い合わせください。

- Photo

石けん作り

紫波での研修の様子。材料の取り扱いにも注意を払いながらより良い石けんができるよう試行錯誤を重ねています。



パッケージ

今年からリニューアルしたパッケージとパンフレット。1つひとつ会員が気持ちを込めて包んでいます。



地域 紹介



堤下集落自治会

堤下集落は油島地区で一番大きな集落で、65戸約200人が暮らしており、小学校や市民センターも立地。自治会発足後、「堤下集落公民館」は自治会の構成団体となり、集落公民館長とは別に自治会長を定め、自治会長が集落全体の総括を行う。

左の写真：集落内にある八幡神社の秋の例祭で集落を巡業する子供神輿の様子

各種団体を「補完」する自治会へ

集落全体を 横断できる組織を

「集落全体を解決の場にできないか。」少子高齢化に「暮らし」の多様化も相まって、集落内に組織されている各種団体が弱体化。これまで個々の団体で課題解決を図ってきたものが、団体内では解決ができなくなってきた現状を受け、「課題解決の場」を創り出すことを目的に「自治会」を立ち上げた集落があります。

「組織構成は描けましたが、まだまだ道半ばです」と、冷静に集落の現状を見つめながら取材に応じてくださったのは、「堤下集落自治会」事務局の金野陸夫さんです。「自治会規約」として掲げた理想的な集落運営に向けて、少しずつ動き始めた堤下集落自治会の組織構成や、今後の課題について伺いました。

堤下集落には昭和46年に「堤下部落公民館（現「堤下公民館」）」が設置され（その元となるような活動は昭和30年代半ばから行わ

つつみした

花泉

堤下集落自治会

れていた）、「学級講座」として地域住民の教養につながるような各種講座の開催や、花壇整備、油島地域として行われる体育行事等への参加など、「集落公民館活動」として、集落レベルでの社会教育活動を担ってきました。

この「（集落）公民館」のほかに、集落内には衛生組合や農家組合、集落営農組合、婦人会、老人クラブ、子ども会育成会、その他多数の組織・支部があり、各々の活動を展開。そのため、構成員はほぼ重なっているのに、総会は各々の開催となり、総会シーズンは住民の負担が大きくなっていました。

負担軽減を目指した 総会改革

そこで平成18年から始まったのが「堤下集落総会」です。大きく構成員が重なる団体の総会を同じ日時で開催し、議事の中で各団体の総会案件を取り上げます。「議事の内容によっては議決権がない参加者も出ますが、そこ

gallery -



油島地区として開催する敬老会では各集落が出し物を担当。婦人会＋持ち回りで各班からも参加者を集め、交流の機会にもなっています。

敬老会での華麗な演技



渡り鳥が集う蒲沢堤
オオハクチョウ、マガン、カモなど合わせて13～15種の渡り鳥が千羽以上も飛来するという地域住民自慢の堤。

は臨機応変にやっています」と金野さん。開催時期も1月の最終日曜日と一般的な総会時期よりも早いですが、これも集落住民の負担軽減を考へての設定。集落内の主要団体の総会を「堤下集落総会」で同時開催したとしても、集落外の組織に関わる人も多く、3〜4月はどうしても忙しくなってしまうので、総会後に新年会を兼ねた懇親会を行うという名目もつけ、1月開催にしています。総会は10時に開始し、昼食としての新年会というのも、様々な層に参加してもらうための工夫といえるでしょう。

次世代のために 「解決の場」という贈り物

そんな堤下が目指した「自治会」は「連絡協議会」のような組織でした。各種団体にはそれぞれに上部組織等があり、簡単に解散や集約ができるものではないため、まずは各種団体の抱える課題を、集落として解決できる場を作りたいという想いで、平成23年9月に自治会立ち上げの検討会がスタート。各種団体の長や過去の団体長、班長など15名ほどのメンバーで約1年間検討を行い、平成25年1月、晴れて「堤下集落自治会」

が発足しました。

組織内には7つの部会を置き、各部会には関係する各種団体の代表や役員が所属。前述の「集落公民館」は体育文化部に、環境整備を担ってきた衛生組合は環境衛生部に所属するなど、これまで個々に行ってきた活動が、自治会としての活動に集約されたように見えますが「実際にはまだカタチだけであって、7部会中2部会しか動いていないのが実情。その2部会も結局は従来の団体が従来通りに活動している状態」と、金野さんは改革の難しさを渗ませます。自治会化の目的の1つに、一部の人に集中していた役の分散もあったそうですが、その実行もまだ完全ではないのだとか。

とは言え、良かったことも。行政等から集落住民の推薦要請（行政区長、民生委員等）が来た時、これまでだと推薦者を検討する明確な立場の人・機会がなく、その都度誰がどうするか検討していましたが、自治会ができてからは地域全体に関わることで自治会の役員会に諮れるようになりました。

また、各戸からの各種集金（衛生組合費や各種募金等）も、自治会として一括で集め、それを分配する流れに

変更。何度もあった会費や募金の集金が一度に済むようになり、集める側も集められる側も楽になったそうです。

自治会ができて6年目。「組織を動かす」ことを念頭に、堤下集落自治会の挑戦は始まったばかりです。

Q.集落の自慢はなんですか？

自治会長



さ き まさかつ
佐々木正捷さん

会長歴：1期1年目
前・油島第2区行政区長。
A. ①白鳥の飛来地として有名な「蒲沢堤」があります。②蒲沢館（下油田城）のあった地です。

集落公民館長



さ とう まさひろ
佐藤正弘さん

館長歴：1期1年目
前・油島第2公衆衛生組合長。
A. 集落の一員としての自覚・団結力のある集落です。

- Photo



自治会役員会の様子

自治会の役員会は必要最小限。年度初めに各部の方向性を確認し、その後は部長に一任。各部がそれぞれ事業を進めます。



2か所の花壇整備

小学校前と集落公民館前の2か所にある花壇は、公民館役員と老人クラブ、子供会とで管理。班長が住民代表として参加するスタイル。

有限会社 旗や伊藤染工場

昭和10年に創業した有限会社旗や伊藤染工場は、三代続く名入れ染物店の老舗で、受注の8割は大漁旗の制作です。

同工場の初代・伊藤銀蔵さん（現代表取締役の祖父）が仙台市の染物屋に丁稚（でっち）奉公したあと、その技術を持って地元の川崎村（現「川崎町」）に工場を築きました。現在まで昔ながらの職人技を代々引き継ぎ、全工程を手作業で行っています。

後世に伝え、継承していきたい職人技

技術を継承するべく 地元川崎へUターン

有限会社旗や伊藤染工場は、岩手県の内陸地域で唯一「大漁旗」を制作している染物屋さんで、下絵描き・糊置き・染色・色留め加工・洗い・縫製など、全ての工程を手作業で行っています。「昔の川崎村は水害地帯というイメージが大きいかもしれませんが、良く言えば水に恵まれた地域。テレビなどで染物を川で洗う姿を見たことがあると思いますが、まさにその通りで、昔は目の前の砂鉄川（※）で洗いう作業をしていました。創業当初は着物の染物もしており、沿岸部の呉服屋さんにも自転車で通っていたことが縁で大漁旗の制作にも携わったようです」と語るのは、三代目代表取締役の伊藤康太さんです。

伊藤さんは高校を卒業後に上京し、百貨店などで使用する垂れ幕を制作する企業に就職しましたが、二代目（父親）が後継者に悩んでいることを知ると、「後世に残していきたい仕事（技）だ」と感じ、それを継承するべく22年前にUターンしてきました。大漁旗とは、一般的に漁に出た漁船が大漁で帰港する際に船上に掲げる横長の大判旗で、進水式に併せて船主

の親戚や関係者などから寄贈される祝儀の一種であり、旗の表面には寄贈者や船名のほか、「祝 大漁」などの文字、日の出や魚、恵比寿、宝船などの絵柄などが海上からでもよく目立つよう、派手な色彩や大胆な構図で描かれています。また、出産祝いや子供の初節句の飾り旗・祝い旗として縁起を担ぐ目的としても活用されています。

沿岸部には大漁旗を制作する工場がいくつかありましたが、後継者不足や東日本大震災の被災により、その数は減少し近隣では大船渡市に2か所、気仙沼市に1か所と大変希少な業種となっています。

（※）現在は河川整備されており、工場から川を見ることはできない。

復興への願い乗せ 「大漁旗」よ、風になびけ

現在は（印刷会社等による）プリント旗がインターネット販売などで簡単に手に入りますが、同工場で制作す

る大漁旗は唯一無二の一点物で、「天候にも左右されますが、1日に3枚仕上げるのがやっと（船一隻に掲げる大漁旗は約40枚）」と伊藤さんは語ります。東日本大震災後は、「がんばれ！〇丸」とメッセージを入れた大漁旗を制作し、各地の漁協などへ寄贈するなど沿岸部の一日も早い復興に願いを込めました。

天候の良い日は、川崎町の薄衣舞川線沿い（168号線）、川崎中学校方面にある同工場敷地にて「大漁旗」を乾かす作業が行われています。色彩豊かな旗が風になびくその姿はこれからも変わらず受け継がれることでしょう。「大漁旗を制作している風景というのは市内の皆さんにとっては珍しいものかもしれません。ぜひ、お近くを通られた際にはお立ち寄りください」と最後に笑顔で語っていただきました。



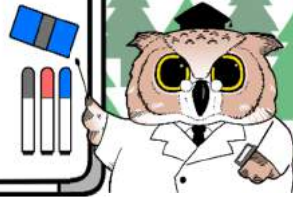
- 1 糊の調整を行う三代目代表取締役の伊藤康太さん
- 2 色付け工程を行う二代目の伊藤佳伸さん
- 3 下絵を確認する伊藤親子

DATA

〒029-0202
一関市川崎町薄衣字上段 25
TEL : 0191-43-2174
Mail : hataya-ito@tulip.ocn.ne.jp

今月のテーマ

地域づくりが おすすめ？



博識杜の フクロウ博士

第3回

「少子高齢化」「人口減少」問題をひとくりにしすぎない

現代がもつ「まちづくり」の意味は、少子高齢化、人口減少による社会構造の変化に対応した将来への備えであり、地域の支え合いを再構築することです。

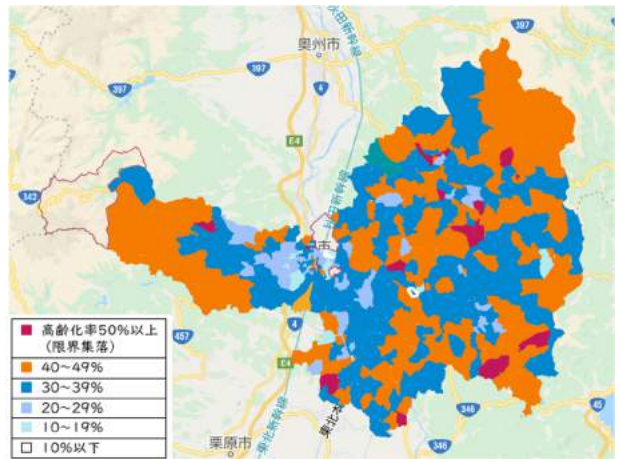
地域のみなさんとお話しをしていると、「おらはは、限界集落だから」という言葉をよく聞きます。集落の高齢化が進み、見渡すと高齢者が多いと感じて、そんな言葉が出てくるのでしょうか。**「限界集落」**とは、65歳以上の人が集落人口の50%以上を占める集落のことを指し、社会学者の大野晃氏が1991年に提唱した概念です。果たして、一関市には限界集落があるのでしょうか？

当センターでは全行政区の人口データを集計していますが、年々、高齢化率が50%を超える行政区が増えています。総人口や高齢化率などの単純な数値だけを見ると、焦りだけが生じてしまいがちですが、問題をきちんと分析し、それぞれに応じた対策や対応が大切です。少子化と高齢化は関連する部分もちろんありますが、背景や課題、対応策も異なります。問題をひとくりにせず、分解して考えてみましょう。

一関市の**高齢化率**（全体における65歳以上の割合）**35.7%**
準高齢化率（全体における55歳以上の割合）**50.3%**
年少人口割合（全体における0歳～14歳の割合）**10.7%**

（平成31年3月31日現在）

行政区別 高齢化率色分け地図



（平成30年3月31日現在の人口データを元に作成しています）
※介護施設への入居者分は含まれておりません。

まずは「生活の場」を豊かに

これまでのコラムでも触れてきたように、近年の様々な危機感の中から、産業の衰退、地域コミュニティの衰退などが叫ばれ、広義の「まちづくり」も、狭義の「地域おこし」も「地域づくり」も積極的に行われるようになってきているのです。では、「地域づくり」「地域おこし」どちらを行えば良いのでしょうか？

答えは、「**どちらも大事**」です。

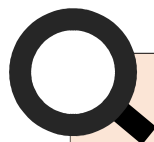
よその地域から注目され産業等に結びつけていく「**地域おこし**」、生活目線で過ごしやすい地域にしていく「**地域づくり**」に優先順位を簡単につけることはできません。ただ、生活の場としての「**地域**」が人と人とが**つながりあい、安全安心で、豊かな状態**を創り出していなければ、それは**住みにくい地域**であり、移住定住までも至らないでしょう。まずは自分達にとって「**住みやすい**」生活基盤を「**地域づくり**」によって**整え**、さらに「**豊か**」な状態にするために「**地域おこし**」に取り組み、市全体としての「**まちづくり**」と言う流れが理想的なのかもしれません。

これからの地域づくりを進めていくためには、自分の地域の世帯状況や人口構成比率を意識することが大事です。目に見える課題だけではなく、本当にしなければいけないことは何かを考える素材になります。今と昔の違いは、人口構成バランスが崩れていることです。昔は地域の中に若い人も多く、何かやろうとしても、やれる人が多くいました。ゆえに、私達の先輩達は、たくさんの地域財を残してくれているのですが、それを昔と同じようにやろうとしても、人が少ないためにやれない現実があるのです。

人口減少は、人口が減るという自然現象であり、直接的な課題ではありません。人口減少による直接的な課題は、**地域運営が困難になること**だと考えます。現実と向き合いながら、人が少ない状況でも地域を運営できるように、**地域にある役職や行事などを見直したり、時代の変化とともに地域の仕組みを再構築する必要があります。**

ミッション
34

「巨樹」探訪 vol.2



当初「市内で一番太い木」を探すというシンプルなミッションで調査を開始するも、木(樹)とは「単純な太さ」で比較できるような存在ではないことに調査の最中に気づいた私たち。樹種別に全国比較をしてみることで、単純な太さ比べでは見えてこなかった「全国に誇れる可能性がある木」を探してみました(3回シリーズの2回目)。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。多少の誤差や調査漏れ、順位の変動等はお許しください。

【市内の巨樹・目通り周ランキング】

※5月号掲載の表を組み替えたもの

順位	名称／地域／推定樹齢	太さ	樹種別にみた全国順位予想
1	真湯のカツラ(巖美) 1000年以上	11m	100位以内
2	箒力ヤ(猿沢) 700年以上	9.5m	10位以内
3	小日形のイチヨウ(藤沢) 約500年	8.35m	200位以内
4	興田神社の杉(興田) 1000年以上	7.86m	杉でこのレベルは多数
5	神中のカツラ(小梨) 約350年	7.44m	250位以内
6	配志和神社の夫婦杉(山目) 1000年以上	7.18m	杉でこのレベルは多数
7	山吹城址のイチヨウ(大原) 約450年	7m	300位以内
8	田茂木のイトヒバ(室根) 350年以上	6.88m	トップレベル
9	夫婦力ヤ(大原) 500年以上	6.4m	40位以内
10	真湯のケヤキ(巖美) 約1500年	6.3m	500位以内
11	御袋神社の杉(室根) 不明	5.94m	杉でこのレベルは多数
12	種蒔桜(エドヒガン)(奥玉) 約400年	5.1m	100位以内
13	田ノ萱のイチヨウ(田河津) 300年以上	5.1m	イチヨウでこのレベルは多数
14	天神角のサイカチ(永井) 400年以上	約5m	20位以内
15	大門神社の杉(金沢) 1200年以上	4.8m	杉でこのレベルは多数

前回(5月号)のあらすじ

「目通り周」(地上から1.2mの太さ)と呼ばれる高さを実測し、「市内で一番太い木」を探していた私たち。ところが、いざ調査結果を並べてみた時に、樹種を無視したランキングの「ナンセンスさ」に気づき、市内での単純な太さ争いには参戦できない木にも視野を広げていったところ、驚くべき結果が！単純な太さでは市内で8位の木が、その樹種の中で全国比較をする、全国1位の可能性が出てきたり、太さではさほど珍しくはないとされた木が、高さ(樹高)では全国でもトップクラスとされたり……。『木』を『木』というカテゴリーで一括りにしてはいけないということに気づかされたのでした。

全国に誇れる木をご紹介！

そこで今月号では、そんな「単純な太さ1位争い」だけでは気づいてあげることができなかったかもしれない「全国に誇れる可能性がある木」をご紹介します！

ただ、私たちの木に関する知識が乏しいがゆえに、珍しさを太さや樹高、樹齢でしか判断することができず、「太さや高さはないが、珍しい木」を把握できずにおります。今回ご紹介する内容は、あくまでも太い木を探す中で集まった情報を整理したものですので、太さに限らず「うちにはもつと珍しい木があるぞ」という情報がありましたら、どうぞお寄せ下さい。「珍木探訪」に参ります！



惜しくもベスト10に入らなかった巨樹
(左：田河津・田ノ萱のイチヨウ 右：奥玉の種蒔桜(エドヒガン))

一関が誇る！全国50位以内の可能性のある巨樹たち

右ページのランキングに掲載された巨樹の中から、全国50位以内の可能性のある木をピックアップしてご紹介します！
(全国予想に関しては、環境省の「巨樹・巨木林データベース」というWEBサイトを元に独自に予想した順位です)

PICK
UP 1

田茂木のイトヒバ

(室根)

目通り周
6.88m



市内の全体ランキングでは8位のこちらのイトヒバは樹種別に比較すると全国1位の可能性(現在全国1位とされているのが6.2m)が！そもそもイトヒバ(正式名：ヒヨクヒバ)はヒノキの仲間であるサワラの変種。素人でも気軽に管理できる庭木として、小さく管理されることが多いようです。また、成長が遅いため、一般的な幹周は20~70cm程度に留まり、岩手県内では大木が珍しいとのこと。

こちらのイトヒバも、遠目には木が2~3本あるように見えるため、根本近くがこれほどの太さであることは室根住民でも知らない人が多いようです。

PICK
UP 2

ほうき 箒カヤ

(猿沢)

目通り周
9.5m



岩手県の指定文化財にもなっているこちらのカヤの木。市内の全体ランキングでは2位ですが、樹種別に比較すると、県内では最大(1位)とされ、全国で見てもトップ10には入るのではないかと予想されます(全国1位は大崎市のカヤで17m！)。

カヤは極めて成長が遅いのですが、長寿であるため、長い年月を経て巨樹化することがあるようで、このカヤも樹齢は700年以上とされています。幹は直立することが多いようですが、このカヤは、根本は1本でありながら、地上2.5m付近で太い枝が10本程に分かれており、その姿が箒のようであることから「箒カヤ」と呼ばれるそうです。

PICK
UP 3

夫婦カヤ

(大原)

目通り周
6.4m



右上でもカヤをご紹介しましたが、カヤは雌雄異株の樹木です。ところが、この夫婦カヤは雄の木と雌の木が融合してしまっています(複数の幹が合体した「融合木」の場合も、目通りよりも低いところで枝分かれしていなければ、1本の木として計測してOK)。そのため、現在この木を管理している方のお父さんが「夫婦カヤ」と名付け、手作りの標柱も立ててあります。

ちなみにこの木の下にはこの家で代々祀ってきた「十人塚(伊達家に追われた10人兄弟が祖先におり、その生き残りの1人が供養で作った塚)」があるとのこと。

PICK
UP 4

天神角のサイカチ

(永井)

目通り周
約5m



サイカチは本来当地方には自生しない木です。しかし、かつてこの地方を治めていた葛西氏が豊臣秀吉によって滅ぼされた時、家臣などが離散しながらも「カサイカチ」と再興を祈り、屋敷の門口にサイカチの木を植えたとされており、樹齢300年を超えるサイカチの木が市内に10本程あるそうです。

この天神角のサイカチは市の指定天然記念物に指定されており、指定当時の幹周は7.9m。この太さは樹種別に見ると全国1位の可能性がありました。ところが！今回調査に行くと、木が割れて3分の1程が倒れていたのです(写真左下)。それでも全国トップ20位圏内。大事にしたいものです。

来月は… 巨樹ではないものの、珍しい木や、木を守ってきた人たちをご紹介します！

お知らせ

講座

月曜からNPO ～もしもあなたが NPO法人をつくったら～

NPO法人を例に、実際の提出書類等を作成しながら団体設立に係るノウハウを学ぶ計4回の連続講座です。全4回の講座で学んだ後は、秋に「NPO参観日」として市内で活動する実際の団体(NPO法人・一般社団法人)を訪問し、設立後のイメージにもつなげます。

期日: 2019年6月17日(月)、7月22日(月)、8月19日(月)、9月9日(月)

場所: なのはなプラザ 4階会議室

参加費: 2,000円(全4回分)

対象: 団体設立を検討している方など

主催: いちのせき市民活動センター

問合せ・申込: 0191-26-6400

講習会

「レク式体力チェック」を 学んでみませんか！

いつでも・どこでも・だれもが・楽しく簡単に「自分の体力」を把握し、皆とコミュニケーションを図りながら継続的に結果を確認できる「レク式体力チェック」について学びます。

日時: 2019年6月30日(日)10時～15時

場所: サン・アビリティーズ一関

(一関市三関字桜町36-3)

参加料: 無料 ※初心者歓迎します

※普及指導員認定を希望する方は、認定料1,000円が必要です。

定員: 50名程度(先着順)

申込締切: 6月21日(金)

主催: NPO法人グッジョブクラブほか

問合せ・申込: 090-9749-0929

学習会

旧松尾鉱山跡地における 森林再生の取り組み

日本の近代化に貢献した代償として破壊された「旧松尾鉱山跡地」の自然環境。平成14年から植樹をスタートし、現在は一般の方にも参加を呼びかけ活動しています。現地に足を運び、自然環境保全や森林づくりに対する理解を深めてみませんか？

日時: 2019年6月30日(日)8時～17時

場所: はずみの里(花泉町老松)など

発着、旧松尾鉱山跡地、藤七温泉

参加料: 無料(温泉入浴料は別途)

募集人数: 20名

申込締切: 6月15日(土)

主催: NPO法人里山自然学校ははずみの里

問合せ・申込: 0191-82-3857

観光学

森と木のアカデミー連続講座 第2回 森林観察会

広葉樹と針葉樹の混交林に徒歩で入り、観察しながら樹種の特徴や見分け方、また危険生物に関するレクチャー等を受けます。年齢・経験不問。女性や未経験者の方も大歓迎です。

日時: 2019年7月20日(土)10時～15時

場所: いちのせき薪の駅付近の森林

(舞川13区公民館集合後、現地へ移動)

講師: 佐藤好さん(樹木医)

参加料: 無料

申込締切: 7月19日(金)

主催: いちのせき薪の会

申込・問合せ: 090-6997-6026

講座

まちづくりコーディネーター 養成講座

「まちづくり」とは何なのか、その考え方に触れつつ、まちづくりを担う人が知っておきたい項目(①地域福祉概論、②話し合いの仕方、③公共交通、④事業の考え方、⑤事務局のおしごと)について、全5回の講座を行います。

期日: ①2019年7月27日、②9月7日、

③9月28日、④10月26日、⑤11月9日

※曜日は全5回とも土曜日です。

場所: なのはなプラザ 4階会議室

参加料: 2,000円

主催: いちのせき市民活動センター

問合せ・申込: 0191-26-6400

登録

いちのせき市民活動センター LINE登録のご案内

いちのせき市民活動センターが行う講座やイベント情報などを、スマートフォン専用アプリ「LINE」で随時配信しています。下記QRコードを読み取ると、友だち登録画面が表示されます。どなたでもお気軽にご登録よろしくお願いします。

※登録・利用料は無料です。

問合せ: 0191-26-6400

(いちのせき市民活動センター)



まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「手作りドラム缶ピザ窯」



大東町摺沢地区の若者会「SAWAS(サワイズ)」(摺沢振興会)では、地域の方から「今後の活動に役立ててほしい」と手作りのドラム缶ピザ窯を寄贈していただきました。今後は7月に開催される「おはよう朝市」でピザ作りワークショップなどを行う予定です。

Q & A

みなさんの「知りたい」にスタッフが応えます。

「社会福祉法人」とは何ですか？

社会福祉事業を行うことを目的とし、社会福祉法に基づいて設立される法人です。第1種社会福祉事業(特別養護老人ホーム等)は社会福祉法人が行政に限定されています。

設立要件は非常に厳しく、財政面における確固たる経営基盤として基本財産を有することや、その他の資金の用意も求められます。